

来の頭痛とめまいを主訴に来院した。軽度の頭蓋内圧亢進と体幹失調を認めた。術前 CT scan では腫瘍は低吸収値を示し、一部に増強効果を認めた。MRI では腫瘍は T1-WI で低信号、T2-WI では不均一な高信号を示した。後頭下開頭で手術を行った。真珠様光沢を有した腫瘍は、大槽を充満し第4脳室に連続していたが、結節状の腫瘍間隙を通して良好な髄液の流出を認めた。piece by piece に腫瘍除去を行ったが、第4脳室内腫瘍除去は自発呼吸下で注意深く行い、脳室底に強く癒着した腫瘍被膜の除去は行わなかった。腫瘍は脈絡叢に強く癒着し、腫瘍に移行する豊富な血管を認め凝固切断した。術中に呼吸運動の異常や血圧、脈拍の異常は認められなかった。摘出標本は角化層と表皮様構造を認める epidermoid であった。術後経過は良好で神経学的後遺症状無く、独歩退院した。

V-2-1) 視神経下部に存在した眼窩後半部 neurinoma の1手術例

杉本 信志・北川 道生
鎌田 恭輔・伊東かほり (北海道大学)
会田 敏光・阿部 弘 (脳神経外科)
吉田 哲憲 (北海道大学)
形成外科

眼窩内 neurinoma は眼窩内腫瘍の数%にあたる比較的まれな腫瘍で、多くは muscle cone 外に存在する。われわれは、眼窩後半部 muscle cone 内、視神経下部に存在した neurinoma の全摘手術を経験したので、手術法、画像診断等についての考察を加えて報告する。患者は56歳男性。左視力低下、眼球突出を認めた。CT、MRI では左眼球後部に境界鮮明で嚢胞を伴う腫瘍がみられた。腫瘍は視神経を上方に圧排し、apex に進展していた。手術では、frontozygomatic approach に準じた開頭のち眼窩上外側壁を開放し、さらに眼窩外側壁を apex まで切除した。periorbit を切開し、外直筋下方より muscle cone 内に入り、apex 近くの毛様体神経に由来したと思われる腫瘍を全摘出した。眼窩外側壁は頭蓋骨内板を用いて再建した。術後、視力は改善し、瞳孔散大、眼球下転障害が出現したが改善中である。

V-2-2) Beriplast P による髄膜腫術中塞栓術

中村 俊孝・鏡谷 武雄
井須 豊彦・小林 延光 (釧路労災病院)
山内 亨・田中 徳彦 (脳神経外科)

髄膜腫は、その易出血性のため、術前に導入動脈に対

する塞栓術が併用されることが多い。一般に、ジェルフォームなどによる塞栓術が行われるが、再開通、腫瘍内出血などの問題が生じることがある。また、近年新しい塞栓物質が使用されるようになってきているが、超選択的なカテーテル操作が必要であり手技的に困難な面が多い。今回我々は、髄膜腫において、fibrin を主成分とする生理的組織接着剤である Beriplast P を用いて硬膜上の導入動脈より術中塞栓術を行い、ほとんど出血せずに容易に腫瘍を摘出できた症例を4例経験したのでビデオを供覧し報告する。

V-2-3) Osteoblastic meningioma の1手術例

大平 広道・西坂 利行 (星総合病院脳神経外科)
高橋 秀和・高萩 周作 (福島県立医科大学)
脳神経外科

Osteoblastic meningioma の1手術例を経験したので術中ビデオを供覧し報告する。症例は65歳女性、頭部単純写にて正中部を中心に左右に広がる石灰化陰影を認めた。CT にて右前頭葉を中心に対側にも及ぶ、辺縁不整で著名な high density の mass と周囲の浮腫を認め、CE-CT では均一に増強された。血管撮影では、rt. A2 の branch と bilt. MMA に feeding される tumor stain を認めたため、術前に bilt. MMA の塞栓術を施行した。右前頭側頭開頭を行うと dura は intact で、dura を open すると薄く引き伸ばされた脳組織を認め、falx side から剝離していくとその下に腫瘍を認めた。腫瘍は非常に硬く、易出血性で、レーザー、bipolar にて凝固しながら piece by piece に摘出した。組織学的には osteoblastic meningioma と診断された。その発生頻度は、すべての meningioma の 1.0~1.9% と稀であり、興味ある症例と考えられたので報告する。

V-3-1) 高齢者破裂脳動脈瘤 (Grade III, IV) に対する急性期手術

青木 広市・中川 忠章 (新潟県厚生連中央総合病院脳神経外科)
田村 彰・小出 章

高齢者クモ膜下出血 (SAH) の特徴の1つは、若年者に比しくクモ膜下腔に大量の血腫を生ずることで、この血腫の存在が頭蓋内圧亢進、髄液の通過吸収障害、水頭症、脳血管れん縮の発生を促し、加齢に伴う脳の脆弱さと相俟って脳血流低下→乏血性脳病変→不可逆性変化→予後不良といった一連の図式をもたらすことである。治

療の基本は早期に頭蓋内の病態を出血前に戻すことであるが、高齢者ゆえに躊躇されることも少なくない。当科は開設10年になるが、この間当初は全例に待機手術、その後 Grade I・II に早期手術、最近では Grade I～IV に早期手術を治療方針としてきた。この変遷は治療結果に基づくものであるが、最近の症例に予後良好例が多い。この点に注目し、高齢者 SAH の急性期手術についてビデオを供覧し報告する。その結果、治療上のポイントとして、早期にクモ膜下血腫の広汎除去、Lamina terminalis を開放し髄液による血腫の浄化作用促進、術後脳槽ドレナージによる血性髄液の間歇的排液などが有用であると考えられた。

V-3-2) 高齢者多発脳動脈瘤の一次的クリッピング

青木 広市・中川 忠章 (新潟県厚生連中央
田村 彰・小出 章 総合病院脳神経
外科)

近年、高齢者のクモ膜下出血入院患者は増える傾向にあり、その中で多発性に脳動脈瘤が発見される症例も比較的多い。その時の治療方針については、高齢者ゆえに特定された破裂脳動脈瘤に対してのみ直達手術を行うとの考えがある一方で、全ての脳動脈瘤に可能な限り一次的又は二期的に行う考えもあり、未だ一致した見解はない。当科では後者の立場で手術方法を工夫、模索してきたが、今回、症例をビデオで提示し、その利点を述べる。

症例：82歳、女性、2度の SAH 後に入院。Grade I、左 A₂-A₃ 動脈瘤（破裂）両側 M₁-M₂ 動脈瘤（未破裂）が発見され、発症7日目に3ヶ所の脳動脈瘤を一次的にクリッピングした。手術：頭部を頸部伸展位で固定し、両側前頭開頭。ACA 領域を半球間裂到達法で、ICA～MCA 領域を前頭底部到達法で、Willis 輪前半部の脳動脈瘤は容易にクリッピングでき、必要に応じてクモ膜下血腫の郭清、洗浄も軽微な侵襲で可能になる。

V-3-3) 術中破裂した外傷性内頸動脈瘤の1修復例

長嶺 義秀・樋口 紘
鶴見 勇治・梅澤 邦彦 (岩手県立中央病院
秋元 義弘・佐藤 一 脳神経センター
小野 靖樹 脳神経外科)

今回われわれは、術中に破裂した外傷性内頸動脈瘤の修復に縫合が有効であった1例を経験したので、ビデオで供覧する。

症例は60歳の男性で、90年8月23日車にはねられ受傷。直後より意識不明となり、当科に搬入された。来院時、意識レベル 300 であった。頭蓋単純写真で側頭部から頭頂部にかけて線状骨折を認め、CT ではびまん性にくも膜下出血を認めた。翌日、意識レベル 3 となり、脳血管撮影では右内頸動脈に脳動脈瘤を認めた。外傷性動脈瘤か真性動脈瘤か術前には診断困難であったが、8月25日手術施行した。術中動脈瘤は破裂し、neck のない状態となったため、trapping して2針縫合したところ止血された。動脈瘤は摘出した結果、仮性動脈瘤であった。外傷性脳動脈瘤の術中破裂は当然予想されることであり、内頸動脈瘤の場合、trapping と bypass の準備も重要であるが、縫合が可能であればそれにまさるものはないと思われる。

V-4-1) 脳動静脈瘻の1手術例

佐藤 直樹・平 敏
沼沢 真一・渡部 洋一 (福島県立医科大学
松本 正人・児玉南海雄 脳神経外科)

脳動静脈瘻の1手術例を経験したのでビデオを供覧し報告する。症例は35歳の女性、頭痛発作で発症した。CTにて松果体部と右頭頂後頭葉皮質に造影剤で著明に増強される陰影を認め、血管撮影では rt. AC, MC, PC を feeder とし internal occipital vein から Galen 大静脈に注ぐ動静脈奇形を認めた。Galen 大静脈は嚢状に拡張しており、二次性の Galen 大静脈瘤と考えられた。右頭頂後頭開頭を行うと、頭頂葉と後頭葉の境界部の脳表に動静脈奇形を認めた。Rt. MC, PC からの feeder を確認後凝固切断し、さらに rt. AC を遮断すると動静脈奇形は退縮した。白色で壁が肥厚した drainer を結紮後切断し動静脈奇形を摘出した。術後、神経脱落症状の出現はなかった。血管撮影では動静脈奇形は消失しており、feeder と Galen 大静脈は縮小していた。組織学的には脳動静脈瘻と診断された。脳内に存在する動静脈瘻は稀であり、興味ある症例と考えられたので報告する。

V-4-2) 小児もやもや病に対する血行再建

上山 博康・磯部 正則
山内 亨・黒田 敏 (北海道大学脳神経
瀧川 修吾・阿部 弘 外科)
三森 研自 (北海道脳神経外科
記念病院)

【はじめに】小児もやもや病に対する血行再建に関し